

地域おこし協力隊

新たな分野で活躍する隊員たち



地域おこし協力隊制度は都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域おこしの支援や集落支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図るため、平成21年に創設されました。

本町では、平成27年度から地域おこし協力隊制度を活用し、地域活性化に取り組んできました。今回は、新たな分野で活動している地域おこし協力隊の取り組みを紹介し、多様な視点を持った外部人材が関わる地域づくりについて考えます。

地域おこし協力隊制度の活用

本町では平成27年度から地域おこし協力隊制度を本格的に活用し、現在活動している隊員を含め17人の若者が活動してきました。任期は最長3年で、任期終了後そのまま町に定住する隊員もいれば、自身の出身地等に戻り、協働人口として本町にかかわり続けてくれる隊員もいます。

これまでは、ひとつの地区に入り、そこで地域づくり活動のサポートをする集落支援部門の隊員を中心に、産業や農業、芸術の振興といった分野で制度を活用してきましたが、ここ数年は新たな分野での活用を図っており、専門的な知識や能力を持つ隊員も増えています。

今年度は過去最多の8人の隊員が活動しています。今回は歴史民俗資料館整備運営部門、高校魅力化部門、森林活

用部門の隊員の活動について紹介します。

町の歴史を掘り起こす

現在、閉校となった旧伊佐領小学校を歴史民俗資料館として活用すべく整備が進められています。

資料館整備にあたり、歴史民俗資料館整備運営部門の地域おこし協力隊を募集し、令和4年5月に欠端彩乃隊員が就任しました。欠端隊員は歴史民俗資料館開館整備のほか生涯学習に関する講座、イベント等のサポートにも取り組んでいます。

令和4年度には白い森くらしの資料館や、やまなみ寮(旧小国中学校寄宿舎)に収蔵していたものを旧伊佐領小学校に運び、再整理したほか、必要に応じて防虫処理、クリーニングを施しました。

活動2年目となる今年度は資料館のプレオープンに向け

特集 地域おこし協力隊 ～新たな分野で活躍する隊員たち～



▲資料館としての整備が進む旧伊佐領小学校

資料の展示方法の検討や説明文・キャプションの作成作業に取り組んでいます。また新たな資料館では考古資料、民俗資料のほか統合前の町内小中学校の歴史についても展示する予定です。そのため、各小中学校の資料を再整理するとともに、地域のかたへの聞き書き調査を実施して、よりよい展示内容や展示方法を模索しています。

欠端隊員は「大学で学んだ民俗・人類学や学芸員の知識を活かし、見やすく楽しい展示になるよう心掛けながら、資料館開館に向けて整備

プレオープンについてはこちらから



愛称募集についてはこちらから



を進めています。活動3年目となる来年度は幅広い年代のかたに資料館を訪れてもらえるようワークショップやセミナーの開催も検討していきたいです。また、これからどんな活用をしていくのか地域のかたと一緒に考えていきたいです。このほか、地域の広報誌を町内の様々な地区で作成し、地域の歴史を記録していきたいとも考えています。地域の歴史や文化、生活などに興味があるので、町民の皆さんに小国町について教えていただきたいと思います。資料館を訪れた際にはぜひお声がけください」と話してくれました。

新たな歴史民俗資料館は令和6年5月頃の開館を予定しており、現在、11月9日までプレオープンを実施しています。また、11月15日まで資料館の愛称を募集しています。

高校魅力化をサポート

令和元年度に小国高校が文部科学省の「地域との協働による高校教育改革推進事業」指定校となり、町でも高校魅力化の取り組みを推進しています。

令和2年度には内閣府の「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業」に採択され、1年間小国高校で学ぶ地域みらい留学365の募集活動が始まりました。また、令和4年度には3年間小国高校で学ぶ白い森留学が始まり、現在、1年生5人、2年生5人が在籍しています。

これらの取り組みを推進するため高校魅力化部門の協力隊が活動しています。

高校魅力化（募集業務コーディネーター）部門は、留学希望者の見学対応や学校説明会の開催といった留学生募集業務や白い森未来探究学など

の授業の支援、各種関係先との連絡調整、放課後活動の企画運営といった高校魅力化のコーディネーターの役割を担っており、片岡隆史隊員と斉藤真美隊員の2人が活動しています。

高校魅力化（留学生アシスタント）部門では、県外から受け入れている留学生の寮での生活サポート等に取り組んでおり、今年9月に中村史龍隊員が就任しました。

中村隊員は「普段は留学生が生活している寮で、先生や保護者のかたと連携しつつ、



▲体調管理や食事の確認など留学生の生活をサポート

健康管理や生活のサポートをしています。このほか高校の授業への協力や地域で開催されるイベントで生徒の引率をすることもあります。協力隊として活動するなかで、高校生という多感で、大事な時期の生徒たちと接する楽しさ、難しさを感じています。また、生徒のためにたくさんの方が関わっていることを実感しています。これからも生徒たちが楽しく過ごせるよう、全力でサポートしていきたいと思っています」と活動について語ってくれました。

また、学校生活等で隊員にかかわる機会が多い小国高校2年生で白い森留学生の澤田旭さんは地域おこし協力隊について「大人のなかでも関わる機会が多く、様々な話を聞くことができて良い経験になっています。出身地や隊員になる前に住んでいた地域がそれぞれ違うので、町のことでなく様々な地域の話や文



▲澤田 旭さん

化を聞くことができて嬉しいです。また、隊員の人たちはみんな地域の人とも仲が良いので、いろんな人を紹介してもらい、関わることで「楽しいです」と話してくれました。

豊かな自然を生かして

町では令和4年度から町内の豊かな森林空間を活用し、森林と健康や食、文化、スポーツといったコンテンツを組み合わせた新たなサービスを生み出す森林サービス産業創出事業に取り組んでいます。

この事業を中心となって推進する森林活用部門の協力隊として、今年9月に宮崎陸隊員が就任しました。森林セラ

ピーのサポートや町内の観光、宿泊施設の調査、森林サービス産業創出事業に係るモニターツアー、ワークショップの運営等の業務を担っています。

協力隊に就任してから2か月程度ですが、森林を活用したコンテンツの医学的効果を取得するためのエビデンス（根拠）取得ツアーや企業向けモニターツアー、ワークショップなど様々な業務に取り組んでいます。

今後の活動について宮崎隊員は「森林セラピーは初めて



▲モニターツアーの運営を支援

関わる分野のため、学ぶことも多いですが、今まで培ってきた知識を活かせるところもあり、これからの活動がとても楽しみです。町内の施設の調査では、現場のかたからお話をうかがい、働き方やサービスなど今後考えていかなければならない課題を洗い出しました。現在取り組んでいる業務のほか、来年度はSNSを活用した広報に取り組み、小国町の厳しくも豊かな自然をいろんなかたに知ってもらいたいと考えています」と意欲を見せてくれました。

地域の一員として

地域おこし協力隊は活動地域に住民票を異動し、地域の一員として生活しながら活動をしています。集落支援部門の隊員はもちろん、他の部門の隊員たちも地域の行事やイベントへ積極的に参加していますので、見かけた際にはぜ

緑のふるさと協力隊

本町では、平成22年から緑のふるさと協力隊の隊員を受け入れています。

これは特定非営利活動法人地球緑化センターが実施するプログラムで、地域の暮らしや活動に関心を持つ若者を地域に1年間派遣するというものです。隊員たちは農作業やイベントなどのお手伝いをしながら地域で生活し、自分の人生を見つめなおしたり、新たな価値観を得たりしています。

地域おこし協力隊制度はこのプログラムや地域づくりインターンなどの都市部の若者を農山漁村へ一定期間派遣する事業をモデルに、創設されました。

今年度は川添翔大隊員が北東部地区を中心に地域で活動しています。

令和5年度隊員



川添 翔大 隊員
愛知県出身

ひお声がけください。
他の隊員の活動については広報おぐにに掲載している協力隊通信でも紹介しています。隊員たちが自分の活動内容や小国での生活について綴っていますので、ぜひご覧ください。

視線を持つ外部人材は、地域では当たり前だと思われるモノやコトを新鮮な目で見ることができ、そこに新たな価値や魅力を見出してくれます。また、既存の人間関係を乗り越え、新たな繋がりを構築してくれます。

町では、これからも地域おこし協力隊制度を活用し、多様な視点を持つ隊員が地域と協働して取り組む地域づくり活動を支援していきます。

令和5年度 小国町地域おこし協力隊



中原 凌 隊員
集落支援部門(東部地区)
千葉県出身



遠藤 奈々 隊員
集落支援部門(沖庭・北部地区)
宮崎県出身



北風 裕基 隊員
木工館活用部門
長野県出身



欠端 彩乃 隊員
歴史民俗資料館整備運営部門
岩手県出身



宮崎 陸 隊員
森林活用部門
千葉県出身



斉藤 真美 隊員
高校魅力化(募集業務コーディネーター)部門
埼玉県出身



片岡 隆史 隊員
高校魅力化(募集業務コーディネーター)部門
東京都出身



中村 史龍 隊員
高校魅力化(留学生アシスタント)部門
東京都出身